

件名 : JACLaP WIRE No.46 (2002年5月2日発行)  
 送信日時 : 2002年 5月 2日 木曜日 3:27 PM  
 差出人 : UMIN <tmitsuda-ykh@umin.ac.jp>  
 宛先 : <jaclap\_wire@umin.ac.jp>

JACLaP WIRE No.46 (2002年5月2日発行)

\*\*\*\*\*  
 本メールは日本臨床検査医会の電子メール新聞JACLaP WIRE No.46です。  
 \*\*\*\*\*

===== 目次 =====

[お知らせ-1]  
 会員動向 (2002年4月30日現在数619名, 専門医423名)  
 [お知らせ-2]  
 日本臨床検査医会行事日程  
 [WHOトピックス1.(Press April 2002 WHO-160)]  
 WHOによるエイズ患者の治療法のガイドライン  
 [WHOトピックス2.(Press April 2002 WHO-161)]  
 エイズ、結核、マラリアの駆除  
 [株式会社じほう提供検査関連ニュース]  
 【The Medical & Test Journal, 2002年4月11日号より】  
 厚労省 C型肝炎ウイルス抗体検査薬の適正使用を呼びかけ  
 公取医 臨床検査センター7社を立ち入り検査  
 日衛協 検査報酬で厚労省と勉強会  
 栄研化学 LAMP法による簡易な遺伝子検査装置販売  
 シスメックス 国際試薬を完全子会社化  
 【The Medical & Test Journal, 2002年4月21日号より】  
 厚労省調査 検査センター906か所、微減傾向続く  
 厚労省 C型肝炎感染対策で検診対象を拡大  
 中医協総会 63施設の平均在院日数は15.94日  
 厚生労働省 臨床検査技師の合格率は68.0%  
 自動化学会春季セミナー 胃がん早期発見にペプシノゲン法推奨  
 B Dのプレイヤー社長 安全で効率的な検査室運営を提案  
 [ From USA : テキサス州M.D.Anderson Cancer Center 臨床検査部レポート#1]

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ-1]  
 会員動向  
 (2002年4月30日現在数619名, 専門医423名)  
 《入会》 3名  
 櫻井 宏治 JA旭川厚生病院検査科病理  
 田島 裕 佐賀医科大学臨床検査医学  
 丹野 正隆 JR東京総合病院臨床検査科  
 《退会》  
 宗像 靖彦 東北大学医学部附属病院検査部  
 所属変更  
 市原 清志 川崎医大臨床検査診断学 山口大学医学部保健学科病態検査学講座・  
 教授  
 伊藤 以知郎 袋井市民病院 静岡県立がんセンター

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ-2]  
 日本臨床検査医会行事日程  
 第12回 日本臨床検査医会春季大会が開催されました。  
 平成14年4月19日~20日

九州大学医学部 コラボセンター  
大会長 九州大学教授 濱崎 直孝 先生  
第48回 日本臨床検査医会教育セミナー  
平成14年5月18日

昭和大学医学部 臨床病理学教室  
担当 高木 康 助教授

第10回 GLMワークショップ  
平成14年5月25日～26日

自治医科大学  
担当 伊東 紘一 教授、熊坂 一成 教育研修委員長

===== JACLaP WIRE =====  
[WHOトピックス-1. (Press April 2002 WHO-160)]

WHOによるエイズ患者の治療法のガイドライン  
20年前にエイズが報告されて以来、2,000万人以上の患者がHIV感染症で死亡している。現在、世界中で4,000万人のHIV感染者があり、その90%は発展途上国に住んでいる。2001年には、世界にHIV感染者が500万人、エイズ死亡患者が300万人いた。HIVに感染しても、3～10年間は治療しなくても元気であるが、放置しておけば、2年間以内に死亡する。先進国にはHIV感染者が150万人おり、その多くの患者は抗ウイルス剤の治療を受けている。1996年にアメリカで抗ウイルス剤を3剤組み合わせ投与するようになって、エイズ患者の死亡率が70%減少した。

エイズ患者で治療を必要とする人は約600万人と予想している。発展途上国ではエイズ患者の5%以下が治療を受けているに過ぎない。2005年までに治療が必要とする人は少なくとも300万人いると予想される。これらの現状を踏まえ、エイズ感染に対する新しい治療のガイドラインを作成した。

その内容は抗エイズ剤として、nevirapineとzidovudineは以前は母子感染防止に使用されたが、今回は成人と小児のHIV感染者の治療に使用されることになった。新薬としてabacavir, didanosine, efavirenz, indinavir, lamivudine, lopinavir, nevirapine, ritonavir (低濃度), saquinavir, stavudineがリストアップされた。これらの薬物を組み合わせることによりエイズ患者の寿命とクオリティオブライフを改善することができる  
(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====  
[WHOトピックス-2. (Press April 2002 WHO-161)]

エイズ、結核、マラリアの駆除  
ニューヨークでWHOや国際連合などの専門家がニューヨークで集まり、エイズ、結核、マラリアに対して世界規模で撲滅運動を行うことが決まった。これらの3つの病気は最貧国の子供を直撃し、適切な治療なしには病気の重荷から逃れることができない。今回の会議の報告によると、新しいHIV感染者の半数は若者であること、サハラ砂漠以南のアフリカではHIV感染者が最も多く、次いでカリブ海地域に流行し、東ヨーロッパと中央アジアで急増していることが指摘されている。

HIV感染と結核は死の組み合わせである。全世界の人口の40%はマラリア感染の危険性がある。これらの3つの疾患に対して予防と治療を組み合わせることで実行することが重要である。

その他、発展途上国で以下のことが問題となっている。すなわち若者の間ではHIV感染についての知識がほとんどないこと、エイズ患者の5%以下しか治療を受けていないこと、結核患者では20%のみが適切な治療を受けているに過ぎないこと、アフリカ28か国では、現在市販されている抗マラリア薬剤の半数は品質が悪く、薬剤耐性もあり効果がないことも報告された。発展途上国でこれらの3つの疾患を減少させるためには81億米ドルが少なくとも必要であり、現在、目標額の11%しか集まっていない。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====  
[株式会社じほう提供検査関連ニュース]

(株式会社じほうホームページアドレス: <http://www.jiho.co.jp/>)

【The Medical & Test Journal 4月11日号から】

厚生労働省 C型肝炎ウイルス抗体検査薬の適正使用を呼びかける  
厚生労働省は3月28日に発表した「医薬品・医療用具等安全性情報175号」で、C型肝炎ウイルス(HCV)抗体検査薬の使用上の注意の「重要な基本的注意」の項目を改訂したことを報告した。厚生労働省は、医療関係者に対し、「使用上の注意が改訂されたことなどに留意して、HCV抗体検査薬を適正に使用してほしい」と呼びかけている。

公正取引委員会 臨床検査センター7社を立ち入り検査  
公正取引委員会は3月27日、独占禁止法違反(不当な取引制限)の疑いで大手臨床検査センター7社の本社・支店などを立ち入り検査した。国公立大学病院が検体検査業務の外部委託で、競争入札の際に談合で受注会社を決めていた疑い。立ち入り検査を受けたのは、エスアールエル、ビー・エム・エル、三菱化学ビーシーエル、ファルコバイオシステム、住金バイオサイエンス、塩野義製薬、大塚製薬の7社。

日本衛生検査所協会 検査報酬で厚生労働省と勉強会  
日本衛生検査所協会の通常総会が3月28日、都内で開かれ、山本義教会長の再選が決まった。今総会は、SRLなど大手検査センター7社が国公立病院の外注検査の入札価格について談合疑惑をもたれ、公正取引委員会に立入調査をされた直後だただけに業界の対応が目撃された。協会としては「7社を守る」との会長見解を示すにとどまり、会員からも今回の事態に対する質問や意見は出されず、14年度事業計画案などを全会一致で採択した。

栄研化学 LAMP法による簡易な遺伝子検査装置販売  
栄研化学は3月29日から、北海道立畜産試験場などと共同開発していた牛胚性判別試薬キットを、微生物化学研究所を通じて発売した。同試薬キットは、「簡易・迅速・精確・安価」な遺伝子検査を特徴とする栄研化学のLAMP法のコンセプトが具現化された第1号製品。特殊な試薬や電気泳動を必要とせず、簡易な専用装置により短時間で雄雌判別が可能という。

シスメックス、国際試薬を完全子会社化  
シスメックスと国際試薬は4月2日、国際試薬の国内外における販売およびサービス部門の営業譲渡契約を1日付で締結したと発表した。営業譲渡日は5月1日を予定。

#### 【The Medical & Test Journal 4月21日号から】

厚生労働省調査 検査センター906か所、微減傾向続く  
登録衛生検査所(以下・検査センター)は今年1月時点で906か所であることが厚生労働省の調査でわかった。前年同月907か所とほぼ横ばいだが、時系列的には平成10年の916か所をピークに減少傾向で推移している。経営主体別でみると公立関連および医師会関連などの検査センターが微減傾向だが、株式会社立の検査センターは前年調査の576か所から584か所に増加している。

厚生労働省 C型肝炎感染対策で検診対象を拡大  
厚生労働省は4月9日、今年度から老人保健事業に加わった肝炎ウイルス検診の対象者を拡大する方針を固めた。坂口力厚生相が閣議後の会見で明らかにしたもので、過去に大きな外科的処置を受けたか妊娠・分娩時に大量出血した経験があって、定期的な肝機能検査を受けていない人は、40歳以上から5歳刻みで設定された節目の年齢ではなくても受診が可能になる。近く、肝炎ウイルス健診の実施要領を改正する。

中医協総会 63施設の平均在院日数は15.94日  
4月の診療報酬改定後、初めて中医協総会(星野進保会長)が4月17日開かれた。総会では、国立病院10施設、民間病院56施設を対象とした「急性期入院医療試行診断群分類を活用した調査研究」の中間報告が厚生労働省から行われた。調査は01年4月~02年2月末までに提出のあったデータについて、診断群分類別に病院別平均在院日数と平均在院日数の全病院データを取りまとめたもの。15万3612症例中、10万4059例を該当データとして分析した。なお、全診断群分類は532分類。在院日数の上位5%をアウトライヤーとして除外した平均在院日数の平均値(63施設)は15.94日となった。

厚生労働省 臨床検査技師の合格率は68.0%  
厚生労働省は4月12日、今年3月に実施した第48回臨床検査技師の国家試験合格者を発表した。受験者4478人のうち合格者3046人、合格率は68.0%。採点除外等とした設問が臨床検

査技師試験で6問あった。

自動化学会春季セミナー 胃がん早期発見にペプシノゲン法推奨  
日本臨床検査自動化学会第16回春季セミナー(影岡武士例会長)が4月13日、倉敷市内で開かれた。シンポジウムで広島大学保健管理センターの吉原正治教授は、胃がんの早期発見に果たすペプシノゲン法(PG法)の現状とその費用効果を、同センターでの取り組みを通して報告。血液による胃検診「ペプシノゲン法」は、簡便で一度に多くの処理が可能、他の検査とも組み合わせやすく、精度管理も容易であり、多くの利点をもつと指摘。今後、ますます拡大していくだろうと「ペプシノゲン法」に期待を示した。

BDのブレイジャー社長 安全で効率的な検査室運営を提案  
米国ベクトン・ディッキンソン社(BD)のクリニカルラボラトリーソリューション(臨床検査部門)のリチャード・ブレイジャー社長が来日、日本BDでは、臨床検査業務のなかに安全性、感染管理を導入し、患者や医療従事者を危険から守ることを最大のポイントとした事業を積極的に展開したいと述べた。

===== JACLaP WIRE =====  
[ From USA : テキサスM.D.Anderson Cancer Center 臨床検査部レポート#1 ]

はじめに  
テキサス州はカーボーイと石油の土地。テキサスの中心都市、ヒューストンは、オイルメジャーが結集する石油産業とNASA宇宙センターと全米最大規模のテキサス医療センターの存在で知られる全米第4位の都市です。街の中心部から小1時間もドライブすれば「大草原の小さな家」の舞台そのままの草原が延々と続くこの土地にNASAや心臓移植センターや癌センターができたのは、石油産業で潤った経済のお陰です。ヒューストンは、石油関連企業のモダンな高層ビルが建ち並ぶダウタウン、南側に少し離れて医療センター、さらに郊外に宇宙センターと産業別にすみわけられています。医療センターは、Texas大学とBaylor医科大学の関連病院群で成り立っており、米国各州はもとより世界中から訪れる患者とその家族のための宿泊施設として建ち並ぶホテルとあいまって、それ自身が1つの都市という印象です。  
この医療センターの一角をなすM.D.Anderson Cancer Center(以下M.D.Aと省略)で骨髄移植部門に属する分子血液学・治療科のポスドク・フェローとなって1年半が過ぎ、生活、研究にも慣れてきたところで、このたび、こちらの臨床検査についてレポートすることとなりました。今回の一連のレポートは、M.D.Aの臨床検査部門の紹介が主になります。M.D.Aは、特殊な癌専門病院であることから、必ずしも一般化できる話題とはならないかもしれませんが、1つのケ-ススタディとして、僅かでもお読みくださる方々のお仕事の参考になるものがあればと願っております。

今回は、まず、M.D.Aについてその特徴的な外来システムを中心に紹介したい。M.D.Aは、U.S.News誌が毎年発表するAmerica's Best Hospitalの癌治療部門ランキングで知られている。例年、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center (New York)、Johns Hopkins Hospital (Baltimore)とともに最上位を競っているが、このランキング基準は、"The best cancer centers take difficult cases and run many clinical trials"に先進的医療に取り組んでいるか、が重要になる。M.D.Aが抱える研究室総数は2001年現在で614を数え、検査部門を含めて全ての診療部門が複数の研究室を有し、主に癌治療に直結する研究に取り組んでいる。

米国医療システムをみると、その入院期間の短さと外来医療の充実に驚かされるが、ここもその例外ではなく、ほとんどの患者は、24時間体制の外来で治療を受けている。2001年の年間入院患者総数は、1万8604人、一日平均入院患者数371人、平均入院期間7.3日で、患者の入院期間は年々短縮傾向にある。一方、外来患者数は増加傾向にあり、2001年の年間外来患者総数は、46万9068人(1日約1500人)で、外来診療を主とする体制が貫かれている。ちなみに、日本の国立癌センター中央病院(東京、築地)の2000年の入院患者総数20万7242人、外来患者総数20万6667人と比較してみると、M.D.Aの外来患者数が国立癌センター中央病院の2.3倍なのに対し入院患者数は1/10弱である。

M.D.Aの新規受診患者のうち、ヒューストンの住民は21.5%にすぎない。ヒューストン以外のテキサス州各地から受診する患者36.3%、テキサス州以外の全米各地から受診する患者36.5%、海外から訪れる患者は5.7%で、約3/4の患者はヒューストン以外の地域からM.D.Aを受診する。そしてこれらの患者のほとんど全ては、ホテル等に宿泊しながら、外来治療を受けることになる。こうした患者のためのホテルが医療センター内に数多くあるが、M.D.Aは、

1993年に病院隣接の直営ホテル（198室、平均稼働率89%）を経営しており、さらに2000年には、受診患者の増加に対応するため新たに124室を増築した。このホテルでは、24時間体制で、M.D.Aからの訪問治療、看護、検査が受けられる仕組みになっている。

しかし、このような直営ホテルに限らず、全ての外来患者に対する検査、治療はほぼ24時間体制で行なわれている。そのために多くのパートタイム人員を含めて職員の時間ロケーションはバラエティに富んでいる。検査部門管理部のChakrabarty副部長によると、昼間は働きながら夜間に化学療法を受ける患者や単に道路渋滞を避ける目的で夕方からの治療を希望する患者のために夜間の検査・治療が積極的に行なわれている。また、アフターファイブを希望する輸血血液提供者の希望を容れて、輸血部の人員配備は、夜間がピークとなる。こうしたシステムが、入院診療の減少と外来診療の充実を可能にしている。外来診療の充実には、医療費の削減に繋がるばかりでなく、患者個人の日常を維持し、より多く家族とともに過ごす時間を持てるという意味合いを持つという。

外来診療で常に問題になるのが待ち時間だが、1999年には、外来待ち時間の短縮がM.D.Aの年間改善目標として掲げられ、その実現に臨床検査部が大きく貢献した。当時の外来患者数は、1日約1200人。外来患者が当日に受ける化学療法の適正薬用量を決める際には、血液検査の結果が必要なため、大多数の外来患者に血液迅速検査が行なわれる。外来待ち時間の短縮には、採血から結果報告までの時間短縮が不可欠とされたが、臨床検査部は、これを1998年の平均60分から1999年には38分にまで短縮した。

「37%というこの大幅な報告時間短縮をどうやって実現したのか。」という私の質問に対するChakrabarty副部長の答えは、「コンピュータシステムの改善」だった。同副部長によると、検査検体のバーコード処理から結果報告に至るまでの様々な段階で、頻繁に起こっていたコンピュータシステム上のトラブルを徹底的に排除するという努力が実を結んだということだった。これに加えて、採血室から検査部への検体の搬送自動化システムも効率的に機能したという。

検査部門の病院収益への貢献度も見逃せない。2001年のM.D.Aの総収益の65.5%を占める患者からの収益（8億3960万6189ドル；約1091億4880万円）の15.7%は、検査部門が稼ぎ出しており、これは、薬剤部門の28.3%に続く。ちなみに第3位は画像診断の13.0%、第4位は手術部門の10.8%となっている。

M.D.Aの検査部門の正式名称は、Division of Pathology & Laboratory Medicineといい、計91名のM.D.およびPh.Dスタッフを擁する。これは、9部門に分かれる病院診療部門のなかで、Division of Cancer Medicine（癌内科部門）、Division of Surgery（外科部門）に続く3番目に大きな部門である。検査部門は、Pathology(anatomical pathology)とLaboratory Medicine(clinical pathology)を統括しているが、実際には、Department of Laboratory Medicine（臨床検査部）、Department of Hematopathology（血液病理部）、Department of Pathology（病理部）、Department of Molecular Pathology（分子病理部）という部門に分かれて機能している。8名のM.D.と2名のPh.D.が勤務する臨床検査部のもとには、生化学検査室、細菌検査室、血液検査室、輸血室、HLA室、検体処理室等が置かれている。この中で、血液検査室は、血液病理部のもとにある免疫・フローサイトメトリー検査室、分子診断学室、細胞遺伝学室と直結する形で機能している。主に白血病の診断、研究に従事する血液病理部には、これら3検査室の他に骨髄検査室が含まれており、6名のM.D.と17名のPh.D.を擁して、より研究色の強い仕事を行なっている。検査部門に属するそれぞれの部が、複数の研究室と研修プログラムを持ち、それぞれに研究スタッフや研修医を擁して、日常業務の他に研究、教育にも注力している。

次回以降は、臨床検査部の日常検査業務に関するレポートとともに研修プログラムについても紹介していきたいと考えている。

#### 参考資料

1. The University of Texas M.D.anderson Cancer Center 1999 Report
2. <http://www.mdanderson.org>
3. <http://www.ncc.go.jp/jp/>

---

JACLaP WIRE, No. 46 (2002年5月2日発行)  
発行：日本臨床検査医会「情報・出版委員会」  
編集：JACLaP WIRE編集室 編集主幹：満田年宏  
記事・購読（配信）・広告等に関するお問い合わせ先：  
〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学医学部臨床検査部医局内  
e-mail : [jaclap\\_wire@yahoo.co.jp](mailto:jaclap_wire@yahoo.co.jp)  
TEL:045-787-2721 FAX:045-786-0392

日本臨床検査医会ホームページ : <http://www.jaclap.org/>  
JACLaP WIRE バックナンバー : <http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*